

# 三大暴れ川の仲間を紹介しまあ

## 第3回 坂東太郎・利根川

日本三大暴れ川の長男・利根川と深い関わりのある荒川の自然や文化を、2回に分けてご紹介します

荒川は、埼玉県、山梨県、長野県の三県が境を接する甲武信ヶ岳に源を発し、秩父山地の水を集めながら秩父盆地まで流れ、東京湾に注ぐ河川です。

一級水系である荒川水系の本流で、一級河川に指定されており、流路延長は173km、流域面積2940km<sup>2</sup>の河川です。

### ◆日本一と言われる埼玉の川

埼玉県は河川数が非常に多く、利根川水系で62本、荒川水系で98本の河川があります。湖沼を含めた割合でいえば琵琶湖を持つ滋賀県が第一位で、次いで茨城、大阪ですが、水辺空間のポテンシャルとして県土に占める水辺空間の割合は約5%、河川面積だと3.9%で日本一です。

### ◆小江戸 川越の街並み

川越からはじまる新河岸川はやがて荒川に注ぎ、そして隅田川となります。江戸時代初期から昭和始めまでの約300年間、川越と江戸を結ぶこの流れを数多くの舟が行き来しました。新河岸川の舟運は、人や物資を載せて運んだだけではなく、川越と江戸を強く結びつける役目を果たしました。川越に深く根付いた江戸の文化は、この舟運によってもたらされたとも言っても過言ではありません。



川越の中心に位置し、江戸情緒あふれる蔵の町並み一番街を始め、川越のシンボル「時の鐘」など、まるで時代劇を見ているような川越城下町です。

### ◆川幅日本一にちなんで

荒川は川幅も日本一。鴻巣市と吉見町を流れる川幅は2537mとなり日本最大です。平成



20年2月、国土交通省荒川上流河川事務所調査で荒川の川幅が全国最長と確認されました。

川幅日本一の認定を受けて、地元鴻巣市は町おこしの一環として、市内の飲食店で川幅日本一にちなんで「幅広うどん」を考案しました。もともと、この付近一帯は昔から小麦の産地で、うどんがご当地を代表するものでした。

また、鴻巣は中山道の宿場町であり、江戸時代初期に京都伏見の人形師が移り住み土雛や木彫り雛を作ったのが始まりで、農閑期に農民が鴻巣雛として作り始め全国に出荷。鴻巣のみならず岩槻や越谷などが雛人形の産地として発展しました。

このほか、ピラミッド壇の高さ日本一、水管橋の長さ日本一、ポピーの栽培面積日本一、サルビアの出荷量日本一、プリムラの



食べてびっくり! 幅広うどん



鴻巣びっくりひな祭り

出荷量日本一、マリーゴールド出荷量日本一などがあります。

### ◆自然を満喫する

#### 長瀬ラインドリ



四季折々の自然を満喫できます

この地域は、古くは農業を中心として発展した地区でしたが、明治44年に秩父鉄道が開通すると、商業工業が発展するのにあわせて観光業が発展してきました。長瀬町全域が県立長瀬玉淀自然公園区域に指定されており、長瀬の象徴でもある岩畳を中心とした地域は、大正13年に国の名勝及び天然記念物に指定されており、地質学的に非常に貴重な地域であるため、「日本地質学発祥の地」と言われています。長瀬観光の代名詞とも言える「ラインくだり」は国の天然記念物に指定された秩父長瀬の岩畳の中を、木造の和船に乗ってゆったりとんびりと、時にはスリリングにと、川下りの醍醐味を味わえます。川の両岸には、太古の地球が育んだ岩石続く雄大な景色が広がっています。天然記念物の岩畳は、一枚の巨大な岩が隆起したもので高さが20mの断崖絶壁が現れるスポットもあります。とりわけ雨の日の翌日は水量が多く、スリル満点です。

### ◆日本三大曳山祭りの

#### ひとつ『秩父夜祭』

秩父夜祭は12月1日から6日に開催される埼玉県秩父市の秩父神社の例祭で、2日が宵宮、3日が本祭となっています。京都の祇園祭・飛騨の高山祭と並んで日本三大曳山祭りの一つに数えられ、提灯で飾り付けられた山車(笠鉾・屋台)の曳き回しや、冬の花火で知られています。大祭の3日の午後6時半頃に、秩父神社から1kmほど離れた御旅所に向けて御幸行列が出発し、6台の笠鉾・屋台がそれに続きます。御旅所下の団子坂を笠鉾・屋台が引き上げられた頃、最高潮を迎えます。



三百年余りの歴史を持つという「秩父夜祭」。屋台・両袖に舞台を特設しての地芝居や、地元の花柳門と軒屋門によるひき踊りは、秩父神社神楽とともに、秩父祭りの屋台行事と神楽として国指定重要無形民俗文化財となっています。